

6

株式会社工房 HAL

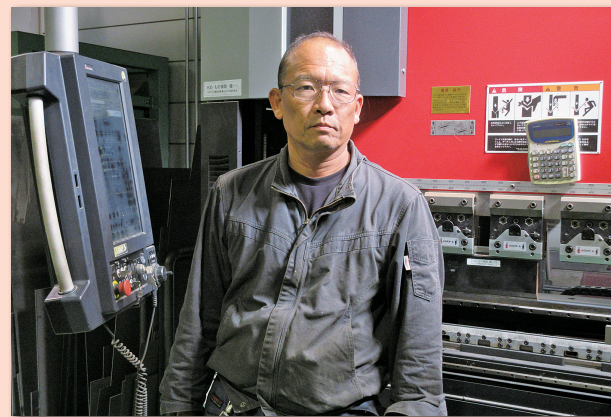
ステンレス曲げ加工の高精度化による新型製品の
商品化と新たな顧客の創造

会社概要

- 社 名：株式会社工房HAL
- 代 表 者 名：代表取締役 松村 明育
- 所 在 地：〒437-0226
周智郡森町一宮5417番地の2
- 取 材 地：同所在地
- 設 立 年 月：平成20年3月
- 業 種：生産用機械器具製造業
- 資 本 金：3,000千円
- T E L：0538-89-7379
- U R L：http://werkhal.jp/



取り組みの経緯



代表取締役 松村 明育氏

変動する産業用機械業界への対応と
食品メーカー向け新型製品の商品化

同社はユーザーごと、工場の製造ラインごとに個別受注方式で生産用機械装置の周辺機器や治具の製造、修理を行っている。

製造する機械装置の多くは自動車・電気機械等の製造業向けであったが、現在では旧来の顧客に依存せず、他業種の顧客を増やし、医療や食品業界における工場の製造ライン向け機械装置の周辺機器や治具の開発、生産にも取り組んでいる。

生産用機械装置を取り巻く環境は、製造拠点の海外移転や景気変動の影響を受けやすい等の要因があることから、厳しい市場となっており、近年は倒産や廃業する同業他社も増加している状況である。

同社では、景気に左右されにくい食品・飲料業界における製造ラインの生産用機械装置を手掛けてきたため安定した受注はあるが、近年は同業界より高付加価値型のメッシュカゴに関する引合いが多くなっている。

そこで今回の設備導入により、高付加価値型メッシュカゴの製造体制を整備し商品化することで、新規顧客の獲得を図ることとなった。

◆具体的な事業内容

同社はユーザーや工場の製造ラインごとに個別受注方式で生産用機械装置の周辺機器や治具の製造、修理を行っている。設備導入により、飲料・食品業界向けの新たなメッシュカゴを商品化し、新規顧客の獲得を図る。

取り組みの内容



導入したハイブリッドドライブベンダー

設備導入による
曲げ加工工程の改善

本事業により商品化するメッシュカゴは、食品メーカー等において、加工前段階での食材の洗浄時、食品製造中の濾（こ）し作業時、飲料や調味料などの液体物への異物混入の検査時などに多く使われている。

一般的なメッシュカゴは、フレームの継ぎ目に洗浄物のカスが付着するなどして、取り除く作業が発生するといった課題がある。

同社ではフレーム材を使用せず、1枚のステンレスシートから型を切り出し、レーザー加工機で細かい穴を多数開け、曲げ加工を施した上で、繋ぎ目を溶接するという製造方法で試作品を完成させた。

試作段階において、取引先からは従来のワイヤータイプのメッシュカゴより目詰まりが発生しにくく、洗浄しやすいとの評価を得ている。

同製品の量産体制に向け、ステンレスシートの曲げ加工工程における歪みや反りの発生とその修正板金の手間が課題であったが、その課題を解消できるハイブリッドドライブベンダーを本事業にて導入したことで量産体制が整った。

結 果



製造された高付加価値型メッシュカゴの一例

新型メッシュカゴの量産体制の構築と
製品品質のさらなる向上

設備導入により、ステンレスシートの曲げ加工工程における歪みや反りのない加工が可能となった。スムーズな加工が実現したことにより、板金修正作業が大幅に軽減され、製造時間の約47%が短縮される結果となった。

それにより、試作品として取引先より高評価を得ていた新型メッシュカゴの量産体制が構築された。今後はさらに加工精度を向上させることで、精密なメッシュカゴを製造し、食品業界だけでなく、医療業界における医療機器の洗浄、消毒、滅菌作業での用途や精密機器類の製造現場での用途として、市場の拡大に努めていきたい。

引き続き、従来のユーザーごと、製造ラインごとに合わせた顧客目線の営業スタイルを維持しつつ、変化の激しい経営環境に柔軟な対応をしていく。また、市場の垣根に捉われない製品開発を進めるとともに、顧客の共通ニーズである短納期、低コスト、高耐久性等の自社製品の強みを活かした経営を続けていく。